

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

食品工場におけるボイラーの更新

(A 重油→LNG)

排出削減事業者名：月島食品工業株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	月島食品工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所 (複数の事業所で実施する場合、行を挿入し全事業所を記載すること)	
事業所名	筑波工場
排出削減事業共同実施者 (国内クレジット保有予定者)	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

食品工場におけるボイラーの更新 (A 重油→LNG)

2.2 排出削減事業の目的

工場で使用しているボイラーを高効率の機種へ更新するとともに、重油から LNG への燃料転換により、二酸化炭素排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

重油ボイラーを高効率 LNG ボイラーへ更新する。これにより、エネルギーの使用の合理化を進めるとともに、二酸化炭素の排出原単位が小さい燃料へ転換することで、二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

項目番号	変更項目	変更内容	変更前	変更後
1	排出削減共同事業者	実施者	一般社団法人低炭素投資促進機構	丸紅株式会社

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2012年1月8日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日～2018年3月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業におけるCO₂排出量算定の範囲は更新前がA重油ボイラー1台、更新後がLNGボイラー3台である。本事業の範囲はボイラー燃料供給設備及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法 に変更ある場 合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後（燃料転換後）の燃料使用量	t/年	2013年度：489.3 2014年度：417.7 2015年度：453.8 2016年度：477.5 2017年度：489.5	LNG 供給会社からの請求書に記載された使用量から気化器の使用量を除いた値を確認する。	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後の燃料の単位発熱量	GJ/t	2013年度：55.0 2014年度 ～2017年度：54.5	デフォルト値（高位基準）	変更なし
ε_{BL}	事業実施前ボイラー効率	%	83.6	カタログ値より算出 （高位発熱量基準）	変更なし
ε_{Pj}	事業実施後ボイラー効率	%	88.2	カタログ値より算出 （高位発熱量基準）	変更なし
$CF_{fuel, BL}$	事業実施前燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013年度 ～2017年度：0.0708	デフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013年度：0.0502 2014年度 ～2017年度：0.0513	デフォルト値	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	489.3	55.0	0.0502	1,351.1
2014 年度	417.7	54.5	0.0513	1,167.7
2015 年度	453.8	54.5	0.0513	1,268.8
2016 年度	477.5	54.5	0.0513	1,334.9
2017 年度	489.5	54.5	0.0513	1,368.5
単位	ton	GJ/ t	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				6,491.0

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	28,394.3	—	0.0708	2,010.3
2014 年度	24,015.4	—	0.0708	1,700.3
2015 年度	26,093.5	—	0.0708	1,847.4
2016 年度	27,453.5	—	0.0708	1,943.7
2017 年度	28,144.1	—	0.0708	1,992.6
単位	ton	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				9,494.3

6.3 リークージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	9,494.3
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	6,491.0
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	3,003

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライ ンー実績 (①ー②)
3,459.8	3,279.0	180.8

省エネルギー量（原油換算）＝3,459.8－3,279.0＝180.8 kl

省エネルギー量（熱量換算）＝134,100.8－127,095.0＝7,005.8 GJ

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)